

10月21日～10月27日 商品検査実績

●微生物検査 273 検体

検査の結果特に問題はありませんでした。

●理化学検査 92 検体

食品添加物検査	30 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	20 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	1 検体実施しました検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	今週は実施しておりません。	
アレルゲン検査	今週は実施しておりません。	
ヒスタミン検査	9 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査 (スペクトロメータ※①)	13 検体 (米 2 検体、野菜 6 検体、果物 1 検体、水産 2 検体、飲料 1 検体、加工食品 1 検体) 実施しました。全て検出下限値 (約 20Bq/kg) 以下となりました。	
放射性物質検査 (サーベイメータ※②)	15 検体 (野菜 6 検体、果物 5 検体、きのこ 4 検体) 実施しました。バックグラウンドとの差異が 3※③kcps (キロ・カウント・パー・セカンド) 以内となりました。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ：遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定

※②NaI シンチレーションサーベイメータ：遮蔽体無ししやへいたいの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定

※③kcps (キロ・カウント・パー・セカンド)：1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド (放射線測定の際の測定対象以外からの放射線で宇宙線や天然の放射性物質に起因する) との差異を3以内としました。



組合員さん VOICE

組合員さんの 想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

つづらなカボス・つづらなユズはお試し2缶などの少量企画があるが、つづらなブドウは、お試し企画がないのですか？まずお試して味を確認してからでないかと箱入り(30本)は購入しにくいです。新商品は少量企画の取り扱いがあると嬉しいです。

実現 しました

お話し少量企画のご要望ありがとうございます。いただいたご意見を検討し、11月3回で、お1人3点までの限定となりますが、「つづらなブドウ 190g×2本」を案内することになりました。国産の巨峰果汁を使用し、アロエ果肉の食感がクセになる味わいの商品です。商品案内をご確認いただき、この機会にぜひお試しください。今後ともお気づきの点や、ご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。



今月のお知らせ ご利用いただく商品の製造状況の確認



ならコープでは、ご利用いただく商品の製造状況を確認しています。取引先を訪問し、衛生管理、防虫管理、薬剤管理、使用する原材料、製造工程、製造にかかわる記録、過去に発生した商品苦情に対する再発防止策等を確認しています。その際に、改善が必要と判断した点については、取引先に改善を要請しています。

品質保証室では、2018年4月～9月に25社(27回)の取引先を訪問し、製造状況の確認を行いました。今後、年末にかけては、お正月にご利用いただく、おせち料理等の製造状況の確認も行なってまいります。



商品検査レポート 9月に実施した商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPIにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数 911	店舗新規商品検査において「畜産1商品」が一般生菌数、大腸菌群にて不適合となり、取扱いをしないこととしました。								
理化学検査	検査数 420	主な検査項目	食品添加物 84	簡易農薬 54	畜種判定 6	残留農薬 (外部検査機関へ依頼) 13	ヒスタミン 40	カビ毒 5	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数 78	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	検査の結果、全て検出下限値(20Bq/kg)以下でした。
		15	20	19	9	8	4	2	1	
放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数 15	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。					
		7	5	3						

※①NaI(エヌエーアイ)シンチレーションスペクトロメータ:遮蔽体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定
 ※②NaIシンチレーションサーベイメータ:遮蔽体無しの持ち運びできる機器:ガンマ線量を測定
 ※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線が宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

